

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371400793		
法人名	有限会社かがやき		
事業所名	グループホーム「かがやき」ホームⅠ		
所在地	名古屋市長区有松南415-1		
自己評価作成日	令和5年3月31日	評価結果市町村受理日	令和5年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2371400793-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市長区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和5年4月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの主人公は入居者の皆さん。職員は黒子であること。食事の献立作り、調理、洗濯や掃除、お一人お一人に状況に合わせた役割、取り組みに心がけています。かがやきのある生活を送っていただくために、コロナ禍であっても、毎日の散歩やホーム内の行事を行い、楽しく過ごせるように取り組んでいます。また、支えて下さるご家族や友の会、かかわって下さる方々とのつながりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームの特徴として、1ユニット6名の利用者のホームであることで、少人数の利用者を支援する職員体制がとられており、一人ひとりに合わせた支援内容や介護計画の検討を重ねながら、利用者や家族の意向等を日常生活に反映することができるような取り組みを継続している。当ホームは、運営法人の代表者が交代したことで新たな体制のもとで支援が行われている。夜勤職員の体制については、長年の課題でもあったが、新たな体制のもとで、2名の夜勤職員が勤務する体制に移行しており、夜間についても利用者に対する柔軟な支援につなげている。また、地域の方との交流も様々な取り組みが行われており、例年は、ホームの前にあるマンションの方の理解と協力を得ながら、マンションの共有スペースで運営推進会議を実施する等、地域の方にホームを知ってもらう取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を玄関と職員室に掲示しています。職員間で情報交換用のバインダーにも入れるようにし、日常的に理念共有ができるよう努めています。	当ホームでは、運営法人の代表者が交代し、体制が変更になっているが、基本理念は今までと同じ理念を掲げており、職員の支援の基本としている。日常的に職員間で理念を共有し、利用者への支援につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎日の散歩、毎月のホームだよりを発行しています。管理者は地域の保存会にも加入しています。	感染症問題が続いていることで、地域の方との交流が困難であるが、近隣の方にホーム便りを配布する活動は継続しており、地域の方にホームを知ってもらう機会をつくっている。また、地域の清掃活動に参加する等、可能な範囲で交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	毎日の散歩、毎月のホームだよりを発行し、暮らしや様子が分かるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	対面での会議が難しく、書面開催が主となっています。ホームの状況や課題をお伝えして、回答書のご協力をお願いし、ご意見を運営や実践にいかせるようにサービス向上に努めています。	会議については、感染症の状況をみながら開催の判断を行っているが、令和4年度は書面による実施も行われている。会議を通じて災害訓練を実施する等、ホームの現状を知ってもらう働きかけも行われている。	例年は、ホームの前にあるマンションの共用スペースで実施する等、様々な方の協力を得ながら会議が行われている。今後の状況もみながら会議の再開につながることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	区役所、いきいき支援センター、緑区社会福祉協議会には毎月ホームだよりをお送りしています。	現状の感染症問題が続いていることで中断しているが、例年は、区内のグループホームの方との連絡会を通じた活動を行う等、区の福祉施策への協力が行われている。また、地域包括支援センターとの情報交換等も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止委員会を行い、日頃より職員間でも意識できるように努めています。またホーム内では、夜間以外は玄関は施錠せず、職員が居室に施錠を行うことはありません。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者がホーム内で圧迫感を感じないように、随時、ホームの外に出る対応も行われている。また、身体拘束に関する定期的な検討や職員研修を実施しており、職員の振り返りの機会につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている。	職員内では虐待防止のため、会議や研修で学ぶ機会を作り、意識を高めるようにしています。今後も、職員がケアを振り返り、防止に向けた取り組みに努めていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	資料回覧なども行っていますが、職員が理解し、実践の中で活用ができるように、職員の意見も取り入れ、学ぶ機会を作っていくように努めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時には、契約書・重要事項説明書などを説明し、お話をする時間を設けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナの影響で家族会や旅行は開催できていませんが、毎月ホームだよりの配布、個別での様子をお伝えしています。またご要望、ご意見については職員全員に伝わるようにし、反映していけるよう努めています。	家族との交流が困難な状況が続いているが、例年は、家族会が主体となった外出行事等が行われている。家族からの要望等に対しては、ホーム管理者の他にも外部の窓口を明示する鳥雲も行われている。また、毎月のホーム便りの作成も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日の申し送り、書類やノートの使用、会議や作文なども通して、意見の把握や意見交換を行い、反映していくように努めています。	少人数の職員体制である利点も活かしながら、日常的に管理者との意見交換等を行い、職員からの意見等を業務改善等につなげる取り組みが行われている。ホームでは法人代表者が交代しており、新たな運営体制のもとで職員一人ひとりの把握が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の希望する勤務時間や勤務内容に応じられるよう努め、やりがいを感じてかがやいて働けるように、環境づくりにも努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員が主導となって、研修を実施できるようにしています。よりやりがいや実践にいかせるよう、充実した研修の機会を確保できるようにすすめます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他施設との交流、勉強会を定期的に行い、サービスの向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人、ご家族、関係者の方にも耳を傾け、情報の把握に努めるようにしています。そして、こまめに報告、相談をさせていただくように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族、ケアマネさん等からお話を伺い、不安や困っていることがなくなるように、こまめな連絡を取り、関係を築いていけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス導入時には、希望や不安、困っていることなど、しっかりとお話を聞くように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	主人公は入居者さんであること。人生の大先輩であり、職員は黒子となって、教えていただける関係になれるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族にはこまめに報告や相談をさせていただき、共に考え、喜び、入居者さんにとってのかけがえのない存在として、共に支援できる関係になるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	なじみの場所、関係が途絶えないように支援していますが、コロナの影響で外出は難しいが増えていますが、感染対策をし、短時間での交流、電話郵便など継続できるようにしています。	ホームでは、入居契約が終了した家族についても「友の会」としてホームに関りを持ってもらうことで、当ホームの利用者との関係継続にもつながる機会がつけられている。また、家族との外出も可能な範囲で行われており、身内の方と過ごす機会がつけられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	おひとりおひとりが大切な方、役割を大切に、共同生活の中で、認め合い、支えあえる関係が築けるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後の関係性も大切にしています。ホームとのかかわりや友の会に加入していただいて、交流を継続しています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	おひとりおひとりの思いや希望を大切にできるように、記録や日々の申し送り、会議を通して、把握していけるように努めています。	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者に関する意向等の確認が行われている。利用者や家族の様々な状況等にも合わせながらカンファレンスを実施しており、利用者や家族の意向等の検討を行い、日常の支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人、ご家族やケアマネさんやお仲間、関係者の方からもお話を聞き、情報共有ができるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	おひとりおひとりのその時、その時の心身の状態を職員全員が共有できるように、会議や申し送りをを行い、把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ミニかがやき会議や毎月担当の職員がモニタリングを行っています。ご本人やご家族の思いを反映できるよう努めています。	介護計画は独自の様式も活用しながら、利用者や家族の様々な状況や変化等に合わせた見直しが行われており、随時の対応が行われている。職員間で日常的に利用者に関するチェックを行い、毎月のモニタリングにつなげる取り組みも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の記録、毎月のモニタリング、ミニかがやき会議、職員会議でも確認し、情報共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	お話を聞きし、その時々々の要望を把握し、柔軟に対応できるように検討していきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナで地域の行事参加の機会は難しくなっていますが、毎日の散歩でのご近所の方とのお挨拶や公園を利用させていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診前に情報提供を送ることや状態に応じて相談をするなど、連携を大切にしています。また、ご本人やご家族の不安なども伝えられるように努め、医師とご家族との面談にも同席させていただいています。	協力医との定期的及び随時の連携が行われており、利用者の健康状態に合わせた対応が行われている。受診については、家族による対応や状況等にも合わせた職員による支援も行われている。また、訪問看護と連携した医療面での支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間の電話相談、週1回の訪問をいただいています。職員とも年に1回は勉強会を行っています。入居者さんが適切な受診や看護を受けられるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、早期に退院ができるように、医療機関、ご家族とも連携し、支援に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	往診時に、年に1回は医師との面談をし、ご本人やご家族の思いを確認して、職員間でも情報共有しています。また、状態の変化があったときには再度確認をするなどしています。	身体状態の重い方もホームでの生活を継続できるように支援が行われており、協力医とも連携しながら看取り支援も行われている。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ねながら、ホームで支援可能な内容の確認が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを作成されています。訪問看護でも相談に乗っていただいています。職員全員が同じ対応ができるよう、訓練を取入れ、より実践力に繋がるように努めます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害を想定して、訓練を行っています。コロナの影響で、消防団と連携した2年に1回夜間に実施していた訓練は行えていませんが、情報提供、共有ができるように努めています。	今年度は3回の避難訓練を実施しており、夜間想定訓練や通報装置の確認も行われている。例年は、訓練に地域の方や家族にも立ち会ってもらい機会をつくり、ホームの現状を知ってもらい働きかけが行われている。また、ホーム内に備蓄品の確保も行われている。	例年は、災害に関する地域の方や家族との協力関係がつくる取り組みも行われており、今後の状況にも合わせたながら、ホームの取り組みが再開されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の大先輩であること、丁寧な言葉遣いになるよう、会議などでも定期的に行い、職員自身、チームでも振り返りを行える機会を持てるように引き続き、努めています。	ホームの基本理念にも掲げている内容を振り返りながら、利用者がその人らしく尊厳を保った生活を継続することができるような支援が行われている。また、日常的にも管理者からの注意喚起等も行われており、職員の振り返りの機会につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	主人公は入居者さんであり、希望や思いを伝えられること。自己決定ができるような声掛けや、環境になるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	おひとりおひとりの暮らし、思いに添えるよう、職員や業務、時間の都合にならないように支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝の整容、おしゃれを楽しむ日や行事も設けて、その方らしい楽しみになるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立づくりや調理や片付けにも参加をしていただいています。季節やお誕生日メニューなども楽しみに繋がるように支援をしています。	職員でメニューを考えながら利用者の好みや嗜好等への配慮も行われている。おやつ作りや季節等にも合わせた食事の提供も行いながら、利用者もできることに参加している。また、利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や形態や食器は、おひとりおひとりにあわせています。状態によって、専門職にも相談して対応をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアを行っていますが、歯科往診で医師や歯科衛生士に助言をいただいて、日々のケアに繋がっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄のパターンの把握に努め、その方にあった衛生用品を使用しています。日中はトイレでの排泄が皆さんできるように支援しています。	日常的に利用者の排泄に関する情報交換を行いながら、一人ひとりに合わせた支援につなげている。トイレでの排泄を基本に、状況等にも合わせた職員2名での支援も行われている。また、訪問看護との排泄に関する医療面での連携も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日の散歩や毎日おやつでのヨーグルトの提供を行っています。排便の状況は記録をし、必要によって医療者へ相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	感染対策や体調等も考慮し対応をしています。浴槽内の入浴が難しい方もいらっしゃいますが、より快適な時間になるよう、今後も検討をしていきます。	ホームでは、毎日の入浴の準備が行われており、利用者が毎日の入浴ができるように支援が行われている。利用者の身体状態に合わせてながら、職員2名での支援も行われており、可能な限り、利用者に浴槽に入ってもらような支援を継続している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	なじみの寝具を持ち込まれますが、お身体の状態に合わせた寝具、休憩時間になるようにしています。同じ姿勢が長時間続く無いように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	居宅管理指導を薬局にお願いしています。往診時には薬剤師さんにも同席をしていただき、日頃の排便やバイタルや体調にも把握していただき、職員も情報共有に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	おひとりおひとりの好きなこと、楽しみ、そして、役割が持てるように、家事やレクリエーションに参加をしていただいています。よりその方らしく、日常が楽しくなるよう工夫をしていきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナの影響で外出する機会を作ることは難しいですが、毎日全員の方がお散歩に出かけられるよう支援しています。状況に応じて、希望にそえるよう工夫や検討もして行きます。	利用者の外出が困難な状況が続いているが、ホームでは、可能な限り、毎日利用者がホームの外に出ることができるように支援が行われている。ホームの近隣を散歩したり、季節や天候等にも合わせながら近くの公園等に出かける機会をつくっている。	利用者の外出の機会がつくられているが、外出行事については限られた範囲となっていることもあるため、今後の状況もみながら、利用者の外出行事の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	コロナ禍ということやご自身でお金を使う機会は減っています。所持や使える機会を持つよう支援をしていきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙もやりとりにもお手伝いをしています。今後も交流が続けられるよう支援していきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホーム内は木を多く使い、窓から日差しも入ります。温度や湿度を1日3回確認して、居心地よく過ごしていただけるように努めています。	ホーム内は木のぬくもりを大切にしたり造りとなっていることで、落ち着いた雰囲気がつくられている。リビングは限られた広さとなっているやテーブルやソファの位置を工夫しながら、利用者が過ごしやすい生活環境がつけられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	椅子席、リクライニング、ソファをご用意しています。おひとりで過ごせる場所、数名で過ごせる場所もあります。座りたい場所で過ごせるように努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはご本人のなじみのものを用意していただき、ホームで手作りされた作品なども掲示して、居心地が良くなるようにしています。	居室については、障子でつくられた出入り口等、和風の雰囲気がつくられていることで、馴染みやすい空間がつけられている。居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや浴室の案内、下駄箱、洗面所、居室の筆筒には名前や分別が分かるようにシール等を貼って、お力を発揮していただけるようにしています。ホーム内は手すりを設置して安全確保に努めています。		